

モロッコ経済日誌 2012年10月

在モロッコ日本大使館経済班

I. 国内経済

1. 指標等

①スタンダード・アンド・プアーズ社(S&P)によるモロッコ長期外債建てソブリン債の見通しの下方修正¹

11日、S&Pはモロッコの長期外債建てソブリン債の格付けを「投資適格」カテゴリーの「BBB-」に維持しつつも、格付けの将来見通しについては安定的からネガティブへ下方修正した。

S&P社は見通しの下方修正の理由について、「経常赤字と財政赤字という双子の赤字への改善策が見られない場合、社会的圧力の増大が政情不安に繋がる恐れがある。また、欧州金融危機によるモロッコ実体経済へマイナスの影響も考えられ、見通しをネガティブにした。今後、状況が改善されないようであれば、格付け自体の引き下げも検討する」と言及。

モロッコ中央銀行のジョアリ総裁は「投資適格」が維持されただけでも良いニュースであると述べた。

②ムーディーズ社によるBMCE銀行, Credit du Maroc格付けの引き下げ²

22日、ムーディーズ社(Moody's)は流動性リスクや不良債権比率等を考慮し、モロッコ貿易銀行(BMCE: Banque marocaine du Commerce Extérieur)およびモロッコ信託銀行(Credit du Maroc)格付けの引き下げを行った。見通しはいずれもネガティブ。

モロッコ貿易銀行(BMCE 銀行): 長期格付 Baa3 → Ba1
短期格付 プライム3 → プライムなし

モロッコ信託銀行(Credit du Maroc): 長期格付 Baa2 → Baa3
短期格付 プライム2 → プライム3

特に、BMCE についてはサブサハラアフリカへの投資拡張が問題視された。

③2012年1月～9月までの貿易収支³

輸入・輸出とも増加。前年同期比で輸入額は4.3%、輸出額は3.8%の増加。ただし、カバー率(輸出額/輸入額)は前年同期の48.4%から48.2%へやや減少した。

	2011年1月～9月	2012年1月～9月	推移
輸入額(CAF)	266, 556	278, 147	4.3%
輸出額(FOB)	129, 035	133, 944	3.8%

¹ Les Echos(10月12日), エコノミスト(10月15日)

² Les Echos(10月24日)

³ モロッコ為替局ホームページ, www.oc.gov.ma, Indicateurs Préliminaires des Echanges Extérieurs Janvier-septembre 2012, (10月10日発表)

貿易収支	▲ 137, 521	▲ 144, 203	▲4. 9%
カバー率(輸出額/輸入額)	48. 4%	48. 2%	

(単位:100万DH)

(1)輸入

原油、軽油石油ガス等のエネルギー関連品目および自家用車・産業用車両など全体的に増加。他方、麦は減少。

エネルギー関連の輸入額増は価格の上昇に伴うもの。原油輸入量はやや減少(360万トン、前年同期374万トン、前年同期比3. 8%減)したが、原油輸入価格が前年同期比で5. 5%上昇(6570DH/トン、前年同期は6228DH/トン)した。

また、軽油・重油については輸入量はほぼ同じ(361万トン、前年同期366万トン)だったが、輸入価格が前年同期比で13%上昇したため(7444DH/トン、前年同期は6585DH/トン)、輸入額が前年比で11. 5%上昇した。

主要輸入品目(単位100万DH)

品目	2011年 1月～9月	割合 (%)	2012年 1月～9月	割合 (%)	推移 (%)
軽油・重油	24,107	9.0	26,879	9.7	11.5
原油	23,326	8.8	23,669	8.5	1.5
石油ガス・その他ガス	12,095	4.5	13,468	4.8	11.3
麦	7,605	2.9	6,738	2.4	▲11.4
機械類	4,941	1.9	5,097	1.8	3.1
化学製品	6,148	2.3	6,086	2.2	▲1.0
プラスチック材料	7,498	2.8	7,943	2.9	5.9
自家用車	6,618	2.5	7,918	2.8	19.6
産業用車両	4,070	1.5	6,002	2.2	47.5

麦の輸入額減少は、輸入量減少と輸入価格の低下によるもの。2011年1月～9月は251万トンを入力したのに対し、2012年同期は239万トンと減少、輸入価格の方も前年同期301DH/トンから281DH/トンへと低下した。

(2)輸出

燐鉱石・リン酸・肥料が全体に占める割合は27. 1%と4分の1以上に相当(前年同期は27. 6%)。その他の品目では自家用車の輸出が昨年に比べ急増した。

品目	2011年1月～9月	2012年1月～9月	推移
燐鉱石・リン酸・肥料	35, 686	36, 380	1. 9%
リン鉱石関連以外	93, 348	97, 563	4. 5%

(単位:100万DH)

主要輸出品目(単位100万DH)

品目	2011年 1月～9月	割合(%)	2012年 1月～9月	割合(%)	推移(%)
燐鉱石派生品	26,426	20.5	26,638	19.9	0.8
衣類	14,146	11.0	14,202	10.6	0.4
ワイヤハーネス	12,067	9.4	11,348	8.5	▲6.0
燐鉱石	9,260	7.2	9,742	7.3	5.2
メリヤス類(靴下など)	5,789	4.5	5,660	4.2	▲2.2
石油燃料	2,606	2.0	4,579	3.4	75.7
甲殻類	4,082	3.2	4,249	3.2	4.1
魚缶詰	2,904	2.2	3,891	2.9	34.0
自家用車	669	0.5	3,428	2.6	412
トランジスター	3,875	3.0	3,289	2.4	▲15.1

(3)その他指標

前年同期比で観光収入、在外モロッコ人からの海外送金、海外からの直接投資の何れも減少。

	2011年1月～9月	2012年1月～9月	推移
観光収入	45,363	43,738	▲3.6%
在外モロッコ人からの海外送金	44,115	42,640	▲3.3%
海外からの直接投資	21,715	20,805	▲4.2%

(単位:100万DH)

2. 建設・公共事業・インフラ等

①マラケッシュ空港のターミナル2の工事進捗状況⁴

2011年3月から開始され現在約32%の工事が終了、2014年末の完成を目指す。

年間受け入れ乗客キャパシティーは現在の300万人から900万人になる予定。観光開発計画 Vision 2020 では将来的に観光客の大幅増加を見込んでおり、同計画に対応するもの。投資額は9億1700万DHで、敷地面積は67,000m²。

②クウェートTaameer不動産投資会社のタンジェ高級住宅開発⁵

クウェート Taameer 社はタンジェで高級住宅、ホテル、ショッピングセンターを開発するため、4800万DHを費やし、35,000m²の土地を購入した。同計画は「Fawaz Al Badr」計画と呼ばれ、総工費は4億5100万DHに上る見込み。

⁴ Les Echos(10月17日)

⁵ Les Echos(10月15日)

3. 農業・漁業

①2012年-2013年穀物収穫高の予測値⁶

10月末に雨量が増加したため、今期の穀物収穫高は約650万トンとなり、農業分野成長率は4～5%になると予測。2013年予算案の農業成長率5%という予測値に近い数字。なお、前年の農業成長率はマイナス5.8%だった。

②2012年-2013年柑橘類生産高の予測値⁷

オレンジ、みかん、グレープフルーツなど柑橘類の生産高は約1500万トン(前年比24.6%減)になるものと予測。地中海諸国全域において柑橘類の生産量は減少しており、輸出量も全体的に15～20%減少すると見られているが、価格の方が上昇するとみられ、輸出額は前年並みを維持する見込み。

③2012年-2013年デーツ生産高の予測値⁸

デーツの生産量は110,180トンと過去5年の平均と比較し10%増と好調だった。ワルザザート地方がモロッコ全体の50%以上の65,000トンを生産した(過去5年平均は56,000トン)。耕作地の拡大、生産性向上を行い、2020年までに16万トン、2030年までに18.55万トンの生産を目指す。

4. 産業・エネルギー

①英国Chariot Oil & Gas Investments の石油探査契約⁹

25日、英国 Chariot Oil & Gas Investments 社は、モロッコ炭化水素鉱山公社(ONHYM)とラバト沖合における6カ所の石油探査契約に署名した。総面積は10782km²で探査契約期間は3年。

②ソニー・ブラビア84型4Kテレビの販売開始予定¹⁰

18日、ソニー社の杉山中東アフリカ部長は12月からモロッコでブラビア84型4Kテレビの販売を開始すると発表した。モロッコにおけるソニーのテレビシェアが縮小する中、販売戦略を転換し、今後は最新技術を投入した製品販売を目指す。市場獲得の可能性が高いモロッコから販売をはじめ、他のアフリカ諸国へも市場を拡大する狙い。同テレビの販売価格は25万DH(約230万円)でソニー特約店である Electronia をはじめとし、他の販売代理店でも購入可能。

⁶ Les Echos(10月31日)

⁷ 農業・漁業省プレスリリース(10月8日)

⁸ 農業・漁業省プレスリリース(10月30日)

⁹ エコノマップ(10月29日)

¹⁰ 各紙報道(10月19日)

③太陽エネルギー・新エネルギー研究所(IRESEN)支援の研究開発プログラムの発表¹¹

30日、IRESEN (Institut de Recherche en Energie Solaire et Energies Nouvelles) は同研究所が支援する2012年研究開発援助プログラム (Inno therm1, Inno therm2) の採用プロジェクトを発表した。企業・大学間のコンソーシアムが提出したプロジェクト数は72に上ったが、そのうちインバーター、断熱材、温水器、リチウムイオンなどに関する8つのプロジェクトが承認され、各プロジェクトに研究費を出資することで合意した。各プロジェクトに充当される額は100～500万DH。

承認されたプロジェクトの関係者とIRESENとの間で署名式が行われ、ダウディ高等教育・科学研究・幹部養成大臣、ドゥイリ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣らが出席した。

5. その他

①「Doing Business 2013」ビジネスの行い易さ度報告書¹²

23日に世界銀行が発表した報告書「Doing Business 2013」によれば、モロッコのランキングは世界185か国中97位と、昨年の94位から3ランクダウンした。詳細を見ると、改善した主な項目は「会社設立」で、会社設立の際の最低資本金の義務づけを廃止し、93位から56位と大幅アップさせた。ただし、手続き日数は12日間と依然として長い。また、貿易手続きに関してはランクダウンしたものの、コンテナごとで計算された輸出費が577ドルと中東・北アフリカ地域で一番安いということはモロッコの強みである。他方、悪化した主な項目は「不動産登記」で、不動産登記料を不動産価格の3.1%から5.9%に増加させたことが原因。

- ・チュニジア:46位→50位
- ・トルコ:71位→71位
- ・モロッコ:94位→97位
- ・エジプト:110位→109位
- ・アルジェリア:148位→152位

モロッコ 順位	総合	会社 設立	建築 許可	電気ア クセス	不動産 登記	信用 獲得	投資家 保護	税制	貿易 手続	契約 履行	破産 手続
2013	97	56	79	92	163	104	100	110	47	88	86
2012	94	93	75	107	144	98	97	112	43	89	67
2011	114	82	98	—	124	89	154	124	80	106	59

¹¹ エコノマップ(10月31日)

¹² 世界銀行 Doing Business 2013

②羊犠牲祭による羊犠牲の数¹³

モロッコでは年間で1000万～1100万頭の羊が屠殺され、そのうちの約400～500万頭が羊犠牲祭一日で犠牲となる。一日のために約70億DHが羊購入に充てられる計算。羊一頭値段は2500～3000DH。

1996年(干ばつの被害で羊頭数も減少した年)と1998年(伝統を守るか否か市民に選択を問うた年)には、ハッサン二世前国王が全国民のために羊一頭を犠牲にした。

③仏スーパーマーケットMonoprixが2013年末にオープン予定¹⁴

仏スーパーマーケット Monoprix がモロッコで2013年末に一号店、2015年までに15店舗のオープンを目指している。Monoprixはチュニジアにすでに進出し、現地のMabroukグループと提携しており、同グループとのリビア進出も決定した。モロッコではMabroukグループ子会社(Société Nouvelle Maison de la Ville de Tunis)が「Monoprix et Monop」という店名で展開する予定。

¹³ エコノミスト(10月12日)

¹⁴ エコノマップ(10月22日), Les Echos(10月22日)

II. 諸外国等との関係

1. 外国政府との関係

①第10回モロッコ-スペイン間ハイレベル協議の開催¹⁵

3日、第10回モロッコ-スペイン間ハイレベル協議に出席のため、スペインのラホイ首相他閣僚が同国のビジネスマンらと共にモロッコを訪問した。

ベンキラン首相及びラホイ首相は、公用旅券への査証廃止や文化・教育協力に関してなど、8つの合意文書に署名した。同協議終了後、欧州・地中海地域の発展及び地中海のための連合(UpM)及び5+5イニシアティブの活性化についての責任を共同して果たすという「ラバト宣言」が発表された。エネルギー相会談では両国間のエネルギー協力に関するハイレベル・ワーキンググループの設置で一致。ワーキンググループは、再生可能エネルギー及びエネルギー輸出などに関する合意文書の起草を行う予定。農水相会談ではモロッコ-EU間の漁業協定に関し、交渉を加速したいとのモロッコ側の希望が伝えられた。農業に関しては、農業パートナー合意が10月1日に発効したことが想起された。

②モロッコ-EU間農業パートナーシップ合意の発効¹⁶

1日よりEU-モロッコ新農業協定(農産加工品、水産品含む)が発効した。今年2月に欧州議会で可決され、6月から発効される予定になっていたが、結局延長され10月1日から発効されたもの。旧協定は2004年1月から2012年9月末まで適用され、新協定に関しては2006年から交渉を開始、6年かけて可決に至った。

EUからモロッコへの輸出:発効直後から55%の品目に対する関税を撤廃(現在33%)。

モロッコからEUへの輸出:10年かけて70%の品目に対する関税を撤廃(現在1%)

なお、重点的に議論されているモロッコからEUへの輸出特別6品目(トマト、ズッキーニ、きゅうり、みかん、にんにく、いちご)については、今回の合意の発効により、輸出上限枠がそれぞれ15~50%増加した。

③中国-アフリカ・リン鉱石分野開発フォーラムの開催(於:マラケッシュ)¹⁷

15日、アフリカ諸国および中国から約170人の関係者が集まり、第1回中国-アフリカ・リン鉱石分野開発フォーラムが開催された。同分野では世界でも先進的な中国の経験が発表され、肥料増産に向けての設備の近代化、自然保護を念頭においた開発などについて話し合われた。

¹⁵ 各紙報道(10月4日)

¹⁶ モロッコ経済日誌 2012年2月、エコノミスト(6月22日)

¹⁷ エコノマップ(10月17日)

④モハメッド6世国王の中東諸国5カ国の歴訪¹⁸

16日－23日、モハメッド6世国王がサウジアラビア、ヨルダン、カタール、ア首連、クウェートの中東5カ国を歴訪した。主な随員は以下のとおり。

ムーレイ・ラシッド王子(国王の弟)、ムーレイ・イスマイル王子(国王の従弟)、アッジマン国王顧問(元法務大臣)、ナスリ国王顧問(モハメッド5世基金会長(女性)、エル・ヒンマ国王顧問(国王の学友でPAM党創設者)、ズナギ国王顧問(前観光大臣)、エル・オトマニ外務・協力大臣、トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣、バラカ経済・財政大臣、アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣、ラバハ設備・運輸大臣、ルアルディ保健大臣、ドゥイリ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣

2011年末モロッコはGCCとの間で戦略的パートナーシップに合意しており、GCC諸国はモロッコの国家開発計画に対して、2012年から2016年の5年間にわたり、年間10億米ドルの財政支援を実施することになっている。サウジアラビア、カタール、ア首連、クウェートの4カ国で等分され、各国が5年間で12億5千万米ドルを拠出する予定。

(1) 16日-17日：サウジアラビア訪問

17日、モハメッド6世国王はアブドッラー・サウジ国王と会談した。モロッコ・GCC間戦略的パートナーシップ、地域情勢及び国際情勢について意見交換を行った。モハメッド6世国王はムーレイ・ラシッド王子とともにメッカに参詣した。

(2) 17-19日：ヨルダン訪問。

18日、モハメッド6世国王はアンマンでアブドッラー・ヨルダン国王と会談。両国間協力関係の拡大及び地域情勢について意見交換した他、ヨルダン国内のシリア難民キャンプ「Zaatari」にモロッコが設営した病院を訪問した。

(3) 20日-21日：カタール訪問

21日、モハメッド6世国王がハマド・カタール首長と会談。両国間関係及びシリア、パレスチナ問題を初めとする地域情勢について意見交換した。随行した国王顧問及び閣僚はカタールの閣僚と会談し、GCCによる対モロッコ支援、カタール、ア首連、クウェートによるモロッコの観光促進支援、クウェートによるモロッコ人労働者の受入促進等について話し合った。

(4) 22日-23日：ア首連を訪問

22日、モハメッド6世国王はアブダビにてムハンマド副大統領兼首相(ドバイ首長)と会談。国王の随員はア首連の閣僚と会合。ア首連は、農業、エネルギー、観光、保健、水の分野で協力すると表明、モロッコ側は、農業、基礎インフラ整備、社会インフラ整備に関する13の計画を提示。ア首連はモロッコに技術委員会を派遣し、これらの計画の詳細を調査した上で、財政支援のプライオリティーを決定すると表明。

(5) 23日：クウェートを訪問

23日、モハメッド6世国王はサバーハ・クウェート首長と会談。両国関係の強化について意見交換した。アラブ経済開発クウェート基金(KFAED)モロッコの開発計画に対する協力継続を表明。

¹⁸ 各紙報道

⑤IMF・世銀総会への出席(於:東京)¹⁹

11日-14日, IMF・世銀総会が東京で行われ, モロッコからブリフ首相付総務・ガバナンス担当特命大臣, バラカ経済・財政大臣, モロッコ中央銀行ジョアリ総裁らが出席した。また, ブリフ大臣とバラカ大臣は「防災と開発に関する仙台会合」にも出席した。(当館注:同総会では, 主に先進各国の財政状況や成長見通し等について議論されたが, 中国閣僚は欠席した。東京での同会合開催は48年ぶり。)

⑥第3回国際原子力エネルギー協カフレームワーク(IFNEC)執行委員会会合の開催(於:マラケッシュ)²⁰

10日, 第3回IFNEC執行委員会閣僚級会合が開催され, 福島原発事故を受けた原子力の安全利用等について議論された。ドゥイリ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣は「原子力発電計画もなければ, 他の決定もされていない。モロッコは今のところ, 観察と学習の時期である」と言及したが, 同時に「原子力安全監督庁」の発足に向けた法案作りについても言及した。

(当館注:日本からは近藤原子力委員会委員長, 柳谷日本大使が出席した。)

⑦韓国グリーン経済開発セミナーの開催(於:ラバト)²¹

30日, 在モロッコ韓国大使館とモロッコ高等計画委員会(統計局)の共催で, 韓国グリーン経済開発についてのセミナーが開催された。アハヌッシュ農業・漁業大臣, 太陽エネルギー庁バクリ長官, 高等計画委員会(統計局)ラリミ長官, 韓国 Kwak Seung Jun 大統領顧問長が出席した。韓国側はさまざまな分野におけるグリーン開発への試みを発表し, アハヌッシュ大臣とバクリ長官はモロッコのグリーン経済への取り組みを発表した。

2. 経済協力

①欧州投資銀行の借款²²

4日, 欧州投資銀行は預金供与公庫(CDG)子会社のMedZに対してテクノポール整備(7カ所)第二フェーズのため1億ユーロ(11億DH)を借款することで合意。

5日, 同行はモロッコ政府に対して灌漑用水節約計画に向けた4億6700万DHの借款を行うことで合意。

8日, 同行はリン鉱石公社(OCP)に対して1億3000万ユーロの借款に合意。二カ所の洗鉱場, クリブガの低品質のリン鉱石の富化およびサフィにおける硫酸工場の設備向上に充当される。

¹⁹ エコノマップ(10月9日)

²⁰ エコノミスト(10月11日), Les Echos(10月11日)

²¹ エコノミスト(10月31日), Les Echos(10月31日)

²² エコノミスト(10月5日, 10月8日, 10月10日)

②フランス開発庁(AFD)の借款²³

9日、フランス開発庁は預金供与公庫(CDG)子会社のMedZに対し、CDGによる保証のもと、1億5000万ユーロを借款することで合意。うち1億ユーロがMedZの銀行への返済に充てられる。

3. その他

①モロッコ・ファイナンシャル・ボードとTheCityUKが協力を締結²⁴

4日、カサブランカ・ファイナンス・シティー計画を進めるモロッコ・ファイナンシャル・ボードと英国のTheCityUKが協力関係を強化していくことで合意した。

世界各地、特に欧州の金融サービスに関する情報共有、人材育成などで協力する。

モロッコ・ファイナンシャル・ボードはシンガポール、ルクセンブルグとも同様の協力協定を締結している。

②モロッコがアラブ地域特許プラットフォーム「ArabPat」協定に署名²⁵

世界知的所有権機関(WIPO)総会のマージンで、モロッコ産業・商業財産庁(OMPIC)、EPO及びWIPOは、アラビア語圏の諸国における特許情報の利用促進を目指す地域的枠組みである「ArabPat」に関する協定に署名した。署名式には、同枠組みに参加するエジプト、ヨルダン及びチュニジアからの代表も出席した。

同枠組みは、各機関が特許情報を交換すると共に、ウェブサイト上に電子情報として公開することで、特許情報の利用性を高めるというもの。

③国際金融公社(SFI(Société financière internationale)、世銀グループ)および二つのファンドがモロッコ中央人民銀行へ資本参加²⁶

9月25日、SFIおよびIFC Asset Management Company 管理の二つのファンドは、共同でモロッコ中央人民銀行(Banque Centrale Populaire)に5%の割合による資本参加をする契約に署名した。取引額は2億400万ドル。

なお、モロッコ中央人民銀行は2011年から金融分野への投資を促進しており、今後はアフリカへの投資を加速させる予定。

²³ エコノミスト(10月10日)

²⁴ エコノマップ(10月5日)、Les Echos(10月5日)、ル・マタン(10月6日-7日)

²⁵ Les Echos(10月5日)、欧州特許庁(EPO)ホームページ

²⁶ エコノミスト(10月1日)、Les Echos(10月1日)